

日本の再エネ潜在能力は需要の2倍

原発最大限活用の撤回求める

2011年の4月26日以降毎年続いている政府・東電交渉が4月22日開催され、福島から60名が参加しました。第7次エネルギー基本計画は「原発を最大限活用する」こととされており、二度と福島のような事故を繰り返さないためにも撤回を求めました。

〈衆・参経産委員に「撤回」要請〉

福島からの参加者は13班に分かれ、衆議院・参議院の経済産業委員と福島県選出の国会議員に対し、「第7次エネルギー基本計画の閣議決定の撤回を求める要請」を行いました。与党議員秘書は「エネルギーの安定供給や脱炭素のために原発も一部必要」と回答。野党議員は「原発ゼロは当然だと考えている。農民連の要請に賛同します」「農地汚染に対して農家へ何の支援もないことを問題だと思っている」と回答されました。また三重県選出国会議員の秘書は、事前に訪問する主旨を電話で連絡した際に「三重県と福島県で何か関係あるんですか。訪問もしないで」というこれまでにない対応でした。原発政策に関わる国会議員に対し、福島の正しい現状を伝えることが必要だと再確認をしました。

〈地震国で安全な原発などない、原発ゼロの実現を〉

午後からは参議院会館で政府と東電に対し、「基本計画」の撤回を要請しました。福島原発事故により今でも避難や移住を強いられていること、東京も含め250km圏内の住人避難の可能性があり、国家存亡の危機であったことを示し、脱原発を迫りました。経済産業省は、「原発事故の反省と教訓をひとときも忘れることなく」と言いつつ、「電力の安定供給、経済成長、脱炭素のいずれの観点からも再エネと原発を最大限活用しないといけない。」と淀みなく回答しました。日本政府は、原発事故が起さるリスクがあっても原発推進することを明確に示しました。

〈日本の再エネ潜在能力は需要の2倍〉

「日本の再エネ導入の潜在能力は？」と問われた環境省は、「2022年発表のデータで、太陽光・陸上風力・洋上風力を合わせて機械的な試算だが、約2兆キロワットと



日本共産党の辰巳参議員事務所では、秘書の方が要請に対し賛同しますと回答をいただきました。



立憲民主党の山崎誠議員事務所でも議員本人から「農民連の要請に賛同します。原発ゼロは当然です。福島の農地汚染についても問題だと思っている」と回答をいただきました。

経産省の原発・火発関連予算をソーラーシェアリング1/3支援に活用すると

原発・火発予算(億円)	80kw 1/3 補助(万円)	補助件数	設備容量(kw)	発電量(kwh)	売電額(億円)	2050年電力需要予測の
2,919	550	53,073	4,245,818	4,670,400,000	514	0.4%

防衛省の防衛費をソーラーシェアリング1/3支援に活用すると

防衛費(億円)	80kw 1/3 補助(万円)	補助件数	設備容量(kw)	発電量(kwh)	売電額(億円)	2050年電力需要予測の
44,261	550	804,745	64,379,636	70,817,600,000	7,790	6.6%

回答。国内の年間電力需要の2倍にあたることを示しました。経産省は再エネ推進について野心的な目標を「基本計画」に含んでいるが、欧州のような再エネ90%は難しいと回答。農民連は、「例えば日本の農地の10%でソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)を実施すれば、国内電力消費量の約20%をまかなえる。住宅の屋根への太陽光設置を国として手厚く支援すれば、再エネ導入はどんどん進み、温暖化防止対策にもなる。陸上、洋上風力も合わせれば再エネ100%は可能だ。無用な原発・火発・防衛予算を廃止し、国として再エネ推進予算をつけるべきだ」と提案しました。

〈農地汚染マップを作り対策をとれ〉

農地の汚染と健康調査について、農民連は「県内の農地表面汚染について1筆ごとに測定すること」をこれまでも国に繰り返し求めてきました。しかし農水省は「すでに除染されている地域については安全」という前提でこの日も回答。農民から「基準値である4万ベクレル/平方メートルを超える表面汚染濃度の農地で作業しても問題ないのか」という問いに厚労省は、「必要であれば除染していただくのだが、国としては表面汚染密度については省令の対象外」と突き放しました。

農民連は毎年、県内2600カ所の農地を測定し、今でも基準値を大きく超える田畑があることを示しています。特に、土壌をあまり耕さない果樹園では、福島市内の複数の園地で38万ベクレル/平方メートルを超えるなどの数値が検出されています。「まずは現地にきて実際の数値を見てほしい」という要請に対し、農水省は「検討して回答する」と答えました。



無用な政府予算 令和7年 経産省 原発・火発関連予算

	億円
次世代革新炉の技術開発・産業基盤強化支援事業	889
原子力の安全性向上に資する技術開発事業	16
電源立地地域対策交付金	777
先進的 CCS 支援及び国内外での貯留適地調査事業	17
カーボンリサイクル・次世代火力発電の技術開発等事業	130
CCUS 研究開発・実証関連事業	75
先進的 CCS 支援事業 (補正)	320
水素等のサプライチェーン構築のための価格差に着目した支援事業	357
競争的な水素等サプライチェーン構築に向けた技術開発事業	83
国内石油天然ガスに係る地質調査・メタンハイドレートの研究開発等事業	255
合計	2,919

令和7年 防衛省 防衛予算

	億円
極超音速誘導ミサイル	2,391
情報収集・衛星構築	2,832
イージス艦・迎撃強化	865
無人アセット防衛能力	1,110
潜水艦1隻建造	1,140
次期戦闘機の開発	1,087
固定翼哨戒機 2機	848
戦闘機(F-35A) 8機	1,387
戦闘機(F-35B) 3機	665
空中給油・輸送機(KC-46A) 4機	2,231
施設の強靱化	6,953
弾薬の確保	2,867
装備品の維持管理	17,696
研究開発	2,189
合計	44,261

農民連フラッシュ flash

東京の真ん中で農業・食料を一緒に守ろうと叫ぶ「令和の百姓一揆」

3月30日東京都内で日本の食料と農業を守ろうと農家、市民4500名が集まり、「令和の百姓一揆」が行われました。福島からも70名を超す参加者が表参道、原宿など3kmを「日本の農業を守ろう」とアピールしながらパレードを行いました。沿道からも手を振ったり、がんばれと温かい声がかかり、参加者も大いに励まされました。



会津農民連女性部 アグロエコロジーに取り組む!

アグロエコロジーの実践のため女性部員の畑をお借りし、新日本婦人の会若松支部の方と一緒にじゃがいもの種を植えました。品種は、男爵、とうや、メークイン。天気にも恵まれ、良い種まき日和でした。収穫が楽しみです。



楽天市場出店はじまりました!



お店の名前は ころんしょっぷ 【福島農民連の Koranshop】

福島の方言、ころんしょ「いらっしゃい」来てください! という意味からきています! 楽天市場からのご購入お待ちしております!



こちらから